

教育目標	
自ら考え行動し、協働できる生徒の育成 ～つながりを意識した学校～	
年度末の最終評価	
自 己 評 価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し 【学校教育目標】自ら考え行動し、協働できる生徒の育成 【目指す生徒像】周りの意見に耳を傾け、自分の考えを適切に伝えられる生徒 【目指す教職員像】愛情をもって生徒と関わりあい、ともに成長できる教職員 年度当初に全教職員と確認し、教育活動を始めることができた。 より意識的に「協働できる生徒」を育成するために、修学旅行や体育大会、太秦文化の日などの学校行事の企画・運営をしっかりと検討し、他者とのつながり認め合い協働することの大切さや楽しさを、昨年度よりも生徒へ伝えることができた。体育大会では縦割りの学年間のつながりを、太秦文化の日の舞台発表では学年のつながりを、合唱コンクールではクラスのつながりをそれぞれ重視した。生徒もそれぞれの場面で精一杯思いを表現・行動することができた。 GIGA 端末も当たり前活用できるようになってきた。 次年度は、日々の授業においても教育目標達成に向けた取組をより意識して、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実、課題解決型学習を本質的により進めていき、教員自身の授業に対する意識改革を進め、継続発展させていく。そして、小中一貫して総合的な学習をより探究的学習としてスパイラルに取り組んでいく。
学 校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策 ・学びの喜びは出会いと気づきにある。その気づきが好奇心を育て未知の世界に子どもたちを誘う。そんな教育を理想としていただければと感じました。 ・しっかりと取り組んでおられます。 ・教職員の皆さんが「誰もが行きたくなる学校」を意識し学校づくりをしておられる。大人たちの気持ちが子どもたちに伝わり、生徒たちが心理的に安定し学校生活が送れていると思います。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和7年10月27日 (第2回学校運営委員会)	学校運営協議会理事
最終評価	令和8年2月25日 (第3回学校運営委員会)	学校運営協議会理事

(1)「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標
カリキュラム・マネジメントを通して協働の基盤となる言語能力を育成する

具体的な取組

カリキュラム・マネジメントの3つの側面から育成を目指す資質能力である「言語能力」を育成する

①教科横断的な視点

- ・ 全ての教育活動で言語能力の育成を意識し、授業内での実践を通して活用していく
- ・ 内容（教材）、思考ツール、話し合いの手法、GIGA 端末の活用を 関連単元配列表に記入、他教科との関連を交流して教科横断的な活用をめざす

【授業改善に向けて】

- ・ 学習指導要領に対応した授業と評価の実践。特に思考力・判断力・表現力をつける授業と評価。また、主体的な態度の育成の評価について…異動着任の先生にも伝わるようにする
- ・ OJT の一環として、教員同士の授業参観週間を設け、授業の資質の向上を目指す
- ・ 特性のある生徒も参加しやすい授業のユニバーサルデザイン

②PDCA サイクルの確立

- ・ 教科会・学年会・職員研修において学習確認プログラムや全国学力・学習状況テストの分析を行う
- ・ 振り返りシートを見直し、改善する（「自己変容」「他者からの学び」ができるもの、主体的に学習に取り組む態度が適切に見とれるもの）
- ・ キャリア・パスポートの活用

③人的物的資源の活用

- ・ GIGA 端末の授業での効果的活用
- ・ より深い小中連携の実践（小中主任会の複数回実施、合同研修会、作品展、キャリア・パスポートの活用、ジョイントプログラムや体力テストの結果共有）
- ・ 華道体験やようこそ先輩、非行防止教室、薬物乱用防止教室など、ゲストティーチャーによる授業の実施

（取組結果を検証する）各種指標

- ・ ジョイントプログラム、学習確認プログラム、全国学力学習状況調査の分析結果
- ・ 家庭学習の点検結果
- ・ 生徒、保護者アンケート結果
着目項目…・ 生徒自身の自己調整学習が進んだかどうか
 - ・ 授業での言語活動で自分の思いを表現することができたかどうか
 - ・ 協働的に活動できたかどうか
- ・ 教職員アンケート結果
着目項目…・ 言語活動を意識的に取り入れることができたかどうか
 - ・ 教科横断的な授業を他教科と連携し、計画的に実施できたかどうか
 - ・ 協働を意識した取り組みを計画的に実施できたかどうか
 - ・ 自ら学ぶ姿勢の育成ができたかどうか

中間評価

各種指標結果

生徒・保護者アンケートの結果	令和7年度	令和6年度
生 ①話し合い活動で友達の意見を聞き協力して活動できましたか。	93.8%	
保	95.6%	
生 ②話し合い活動で積極的に自分の意見を発言していましたか。	76.2%	

保	75.0%
生 ③人前で話すことが前よりできるようになりましたか。	76.8%←79.4%
保	76.8%←79.4%
生 ④予習や復習など家庭で学習に取り組むことができましたか。	71.4%
保	54.2%
生 ⑤学習したことを振り返り、次へ活かしていますか。	82.5%
・教職員アンケートの結果	
① 「言語能力の育成」を意識した授業が行えていますか。	96.3%←93.8%
② 授業と家庭学習を連動させた授業を計画できていましたか。	81.5%
③ 他教科を意識し、教科横断的な授業を計画できていましたか。	70.3%
④ 生徒が自ら考え、行動するように指導できていますか。	88.8%←96.9%
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>ジョイントプログラム・学習確認プログラム結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生ジョイントプログラム国語は全市平均を上回り、数学は全市平均を若干下回る結果。効果的な家庭学習を増やして、最終的には自学自習のできる生徒の育成を目指したい。 ・2年生学習確認プログラム国語、英語は全市平均。社会、数学、理科は全市平均を下回る結果。しかし、数学、理科は前回と比べ正答率が上がっている。少しずつ成果が出ている生徒が増えているようである。今後も基礎的な知識の定着を目標に続けていく必要がある。 ・3年生学習確認プログラムは、数学以外は全市平均を上回った。総合的に見ても、正答率がこれまでで一番よく、少しずつ成果が出ている生徒が増えているようである。 <p>各アンケート結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート内容を再検討し、新たな項目にしたため、今後の推移をみていきたい。 ・意見を発言したり、人前で話したりすることなど、自分から発信していくことを苦手を感じているようであり、今後言語活動を通して自信をつかせていく必要がある。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>ジョイントプログラム・学習確認プログラムの結果より</p> <p>1年生：家庭学習を増やし、基本の力が定着するよう、できる範囲で個別の指導などを丁寧に行っていく。</p> <p>2年生：基礎的な知識の定着に向けて、授業規律を整え、地道なことを着実に取り組ませることで、学力を向上させていきたい。また、そこで得た知識を活用する活動を入れ、学習意欲を高めていきたい。</p> <p>3年生：希望の進路に向けてさらに学力をつけていけるよう取り組んでいきたい。</p> <p>各アンケート結果より</p> <p>今後も、言語能力の育成を目指した授業に学校全体で取り組み、自信をもって発言できる生徒の育成を目指していきたい。そのために、学んだことや家庭学習で身につけた力を活用する活動を充実させるとともに、教科横断的な言語活動を計画的に設定し、学校教育全体で、生徒が自ら進んで行動できるよう支援していきたい</p>
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジョイプロ・学プロ・全国学力・学習状況調査の分析結果。 ・生徒・保護者アンケートの結果
	① 話し合い活動で友達の意見を聞き協力して活動できましたか。

	<p>② 話し合い活動で積極的に自分の意見を発言していましたか。</p> <p>③ 人前で話すことが前よりできるようになりましたか。</p> <p>④ 予習や復習など家庭で学習に取り組むことができましたか。</p> <p>⑤ 学習したことを振り返り、次へ活かしていますか。</p> <p>・教職員アンケートの結果</p> <p>① 「言語能力の育成」を意識した授業が行えていますか。</p> <p>② 授業と家庭学習を連動させた授業を計画できていましたか。</p> <p>③ 他教科を意識し、教科横断的な授業を計画できていましたか。</p> <p>④ 生徒が自ら考え、行動するように指導できていますか。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力は地道な学習の積み重ねで身につくのだと思います。義務教育として中学校の三年間は貴重な時間です。大切に過ごしてほしいと思います。 ・基本、人の話を聞かないと話す事はできない。慣れるまでは訓練が必要だが、最終的には自信となり人前で話す事が前よりできるのではないのでしょうか。しっかり聞けるということも大切である。 ・欲(=努力)がないと成長することはできない。意欲を持って挑めれば前に進んでいける。成長する事ができると思います。 ・聞く力、話す力を養うには、やはり新型コロナウイルス感染拡大防止対策が影響しているのではないのでしょうか。対面で会話できることでコミュニケーション能力を養うことができるのだと思います。それが欠けていた時期があるので、取り返させてほしい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果		
・ジョイプロ・学プロ・全国学力・学習状況調査の分析結果		
1年生の BasicStage1 では各教科・総合共に全市平均より上回った。		
2年生の Pre-Stage2 では総合で全市平均よりも若干下回った。社会と英語が全市平均を上回った。		
3年生の全国学力・学習状況調査の結果は国語、理科は、全国平均並みで、数学が若干下回った。		
・生徒・保護者アンケート	前期結果	後期結果
生 ①話し合い活動で友達の意見を聞き協力して活動できましたか。	93.8%	→ 95.5%
保	95.6%	→ 95.3%
生 ②話し合い活動で積極的に自分の意見を発言していましたか。	76.2%	→ 76.6%
保	75.0%	→ 82.4%
生 ③人前で話すことが前よりできるようになりましたか。	76.8%	→ 77.5%
保	76.8%	→ 77.3%
生 ④予習や復習など家庭で学習に取り組むことができましたか。	71.4%	→ 69.5%
保	54.2%	→ 56.1%
生 ⑤学習したことを振り返り、次へ活かしていますか。	82.5%	→ 83.6%
・教職員アンケート	前期結果	後期結果
①「言語能力の育成」を意識した授業が行えていますか。	96.3%	→ 96.0%
②授業と家庭学習を連動させた授業を計画できていましたか。	81.5%	→ 56.0%
③他教科を意識し、教科横断的な授業を計画できていましたか。	70.3%	→ 64.0%

④生徒が自ら考え、行動するように指導できていますか。

88.8% → 96.0%

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・担当教科だけでなく、道徳や総合、学活を含め様々な教育活動で協働の基盤となる言語能力の育成を意識することにより、生徒にもつながりを意識したコミュニケーション力が付いたと考える。
- ・話し合いや人前で話すことに関しては、どの項目も若干伸ばすことができた。今後も話し合い活動や人前で話す機会を作ることはもちろん、その過程で自信をつけさせるような教員のサポートや周りの仲間が聞いてくれたり、称賛してくれたりする安心した空間を作っていくことが大切だと考える。
- ・言語能力の育成を意識した授業計画ができているが、学びが授業内で終わっている部分が多いようである。調べてきたことを次の授業で表現したり、授業で習ったことを深めたりするなど授業内で終わらせず、家庭学習とつなげるような学習指導を意識していきたい。

分析を踏まえた取組の改善

- ・総合的な学習の時間において、生徒がどのように変容したか見取れるような表現課題を入れるように年間計画を見直し、各教科で「協働の基盤となる言語能力」をつけさせるようなカリキュラム・マネジメントをしていく
- ・教科横断的な教育活動を進めるために、定期的な関連単元配列表の見直しをする。
- ・研修会や教科主任会等で、授業のあり方や授業づくり、課題の設定についての工夫、改善についての交流を進めていく。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・他教科との関連を交流し教科横断的な活用をめざすとの事、教員同士の授業参観週間すばらしいと思います。
- ・積極的に自分の意見を述べる事、人前で話す力は慣れ・経験と自分の意見を自信を持って尚且つ、出来るだけ大きな声で他者に聞いて貰う、聞かせる事に繋がります。そして余り難しい言葉を並べるのではなく、自然体で気持ちを楽に自分の持っている言葉で、話せば良いのではないのでしょうか。
- ・予習や復習等、家庭での自学について、保護者の評価は少し厳しいようですが、小学生の時から癖をつける様にすれば、それ程難しい事では無いと思います。
- ・義務教育における基礎学力の習得は何より大切です。確かな学びの上にこそ新たな向上があると思います。

(2)「豊かな心」の育成に向けて

重点目標

自己有用感を高め、自尊感情の高揚を図り、自他を大切に作る心など、つながりを意識した豊かな人間性の育成を目指す。

具体的な取組

- ・生徒が関わる周りの人たちとのつながりを意識し、自己肯定感や自己有用感が得られる取組の推進。
- ・「生徒に寄り添う」「最後まで粘り強く取組」を基底に据え、共感的な生徒理解に基づく個に応じた指導の推進を図るとともに、生徒相互、生徒と教職員の受容的・共感的な人間関係の育成・深化。

- ・「豊かな心」の育成の柱となる道徳教育の充実。
- ・道徳的実践力を育むため、道徳教育の柱となる道徳の授業を特活・行事と連携。
- ・受容的・共感的な人間関係の育成に向けた、一人一人が大切にされていると実感できる学級づくりの推進。
- ・生徒たち自身の手による「より質の高い集団作り」に向け、生徒会活動の一層の活性化。
- ・教育活動全体を通じた、人権尊重の精神の育成。
- ・生徒たちが多文化共生社会の担い手となるため、太秦の地と外国とのつながりに気づく取組の推進。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・生徒、保護者アンケート結果
- ①自分を大切にしていますか
- ②他人を大切にしていますか
- ③1人1人が大切にされている学級ですか
- ④友達や先輩、後輩とつながっていると感じていますか
- ⑤家族や先生など大人とつながっていると感じていますか
- ・教育相談の結果

中間評価

各種指標結果

各種指標結果		令和7年度	令和6年度
・生徒・保護者アンケート			
生	①自分を大切にしていますか。	92.4%	←93.0%
保		99.1%	←97.8%
生	②他人を大切にしていますか。	98.3%	←98.5%
保		97.9%	←97.8%
生	③一人一人が大切にされている学級ですか。	87.8%	←90.8%
保		93.7%	←87.7%
生	④友達や先輩、後輩とつながっていると感じていますか。	91.5%	←90.8%
保		92.9%	←90.6%
生	⑤家族や先生など大人とつながっていると感じていますか。	94.9%	←97.1%
保		98.8%	←96.7%

自己評価

分析 (成果と課題)

- ・生徒アンケートでは、昨年度より引き続いて若干ではあるが、「自分を大切にしている」の項目では数値が減少した。自分のことを大切だと思える自尊感情の育成において、意識して取り組んでいき、自己肯定感を高めていく機会を増やしていく必要がある。
- ・保護者アンケートでは、どの項目においても、昨年度の数値以上の値を示している。学校での教育に対しての理解が得られており、保護者も学校の教育活動に協力的な様子が見える。今後も、保護者と連携を測り、教育活動を行っていくことが良いと考えられる。

分析を踏まえた取組の改善

- ・今年度は、年度当初に全ての教育活動において「共有していく」ことを意識していくことを全教職員で確認した。情報の共有に関してもまだまだできていない部分もあり、今後も更に意識して教職員間の連携を測り、生徒の些細な変化も共有していきたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は自尊感情がなければ人前で発表したりすることはできない。発信力を高め、自尊感情や自己肯定感を高めていければと考えている。 ・このアンケートの結果を真摯に受け止め、昨年度に引き続き「つながり」を意識して、教育活動に臨む。 ・日々の生活で生徒と関わり、生徒を褒める機会を大切にする。 ・授業では、生徒がパフォーマンスできる機会や評価される機会を増やし、自己肯定感を高めていく。 ・保護者に生徒の様子を伝える機会を増やしたい。学級・学年通信や学校だより、ホームページ等で、学校の取組や生徒の様子を積極的に発信していきたい。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者アンケート <ol style="list-style-type: none"> ① 自分を大切にしていますか。 ② 他人を大切にしていますか。 ③ 一人一人が大切にされている学級ですか。 ④ 友達や先輩、後輩とつながっていると感じていますか。 ⑤ 家族や先生など大人とつながっていると感じていますか。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日の生活の中で自分に向き合う、そして他人に向き合う機会を重ねて、思春期における自己肯定感を持つ事と他人を認め尊重する事の大切さを学んでほしい。 ・合唱コンクールでの発表を見て、子どもたちの情熱を感じる事ができました。取り組む過程で個々熱量が違うことで衝突することもあったが、子どもたちもいい経験になったと思う。子どもたちは、人前で発表する機会を通して成長できる。好きな事を自分で見つけて努力することが大切だと思います。

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果		
	・生徒・保護者アンケート	前期結果	後期結果
	生 ①自分を大切にしていますか。	92.4%	→ 95.0%
	保	99.1%	→ 98.8%
	生 ②他人を大切にしていますか。	98.3%	→ 97.5%
	保	97.9%	→ 98.8%
	生 ③一人一人が大切にされている学級ですか。	87.8%	→ 91.7%
	保	93.7%	→ 91.3%
	生 ④友達や先輩、後輩とつながっていると感じていますか。	91.5%	→ 91.4%
	保	92.9%	→ 93.0%
	生 ⑤家族や先生など大人とつながっていると感じていますか。	94.9%	→ 95.5%
	保	98.8%	→ 99.6%
自己評価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的にどの項目も90%以上になっており、概ね学校生活に生徒も保護者も満足している家庭が多いことが伺える。 ・①②の項目では、生徒・保護者ともに高い数値を示している。学校生活においても、自分の気 		

	<p>持ちを大切に行動している姿が見受けられるようになってきている。今の現状を継続して温かい学級造りをしていく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・④の項目では、同学年の横の広がりや、他学年とのタテの広がりについてのつながりを意識した項目であったが、一定の関係性を構築していけていることが見受けられる。他学年とのつながりに関しては、部活動などに参加していない生徒が一定数いるため、他の項目よりも低くなっていることが考えられる。今後も、2年生の力を育て、先輩としての責任と自覚をもち、後輩を引っ張り、つながりを感じられるような教育活動を行っていく必要がある。
	<p><u>分析を踏まえた取組の改善</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業をより充実させ生徒に道徳的価値を考えさせる時間をしっかりと設けていきたい。 ・生徒の規範意識を高め、時間やルールを守り、どんな生徒も受け入れられる集団をつくることで、全ての生徒にとって教室を居心地の良い場所にしていく。 ・生徒のリーダー性を高め、大人はコーディネーターとなることで、生徒主体の活動を多く取り入れ、生徒同士のつながりを強めていく。
<p>学校関係者評価</p>	<p><u>学校関係者による意見・支援策</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育の必要性は何時の時代でも、どのような環境下においても身に着けておかなければなりません。身に着けた道徳はしいては、友人・先輩・後輩・先生・両親・兄弟の全ての対象者から、信頼や評価を得ることになります。いつも心豊かに優しく人に接し、沢山の友達をつくりましょう。 ・自他共に大切にしているというアンケート、個々が自覚を持って日々過ごしている。 ・生徒会活動も良いのですが、クラブ活動も活発であってほしいです。 ・しっかりと取り組んでおられます。 ・豊かな心の育成は、地域も協力出来る事があるかと思えます。 ・地域の事業への参加呼びかけなど、今まで以上に出来る事があるかも。 ・思春期の多感な心が行き場を無くして孤立しないよう、毎日の生活の中にあるつながりを大切にしてほしいものです。

(3)「健やかな体」の育成に向けて

<p><u>重点目標</u></p>	<p>基本的な生活習慣の改善（デジタル機器の利用による体調不良を含む）と心身の健康の自己管理能力の向上（感染症予防を含む）に向けた保健指導の充実を図る。</p>
<p><u>具体的な取組</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食事、運動、休養、睡眠など調和のとれた基本的な生活習慣の習得 ・スマートフォン等のデジタル機器等について適切な利用につなげる保健教育の実施 ・飲酒、喫煙、薬物の有害性や危険性、医薬品についての正しい知識の修得とその活用 ・運動することの楽しさを味わい、生涯スポーツにつながる体育学習のより一層の充実 ・心身の健康の保持増進を目指した食教育の推進 ・<u>交通事故や水難事故、転落事故、熱中症等様々な危険から身を守るための知識を身に付け、判断力を養う安全教育の充実</u> ・地震、台風、豪雨、火災等の災害は身近に起こりうるものとして捉え、<u>主体的に行動する力を育てる防災教育の推進</u> ・感染症の予防についての正しい知識の習得と適切な行動を實踐できる保健教育の充実

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・生徒、保護者アンケート結果
 - ①防災や喫煙、薬物の危険性など十分にわかりましたか
 - ②規則正しい生活ができていますか
 - ③自らの健康増進ができていますか
 - ・教職員アンケート結果
- 健康増進に向けた指導をできていますか

中間評価

各種指標結果

・生徒・保護者アンケート	令和7年度	令和6年度
生 ①防災や喫煙・薬物の危険性など十分にわかりましたか。	97.8%	99.2%
保	94.9%	96.7%
生 ②規則正しい生活ができていますか。	85.3%	84.6%
保	78.3%	68.4%
生 ③自らの健康増進ができていますか。	85.8%	86.0%
保	69.4%	63.4%
・教職員アンケート		
健康増進に向けた指導をできていますか。	88.9%	75.1%

自己評価

分析 (成果と課題)

- ・生徒の防災や喫煙・薬物の危険性の理解は、昨年度と比較し少し低下している。今後、増加傾向になるように保健体育科等の協力も得ながら指導を行っていききたい。
- ・規則正しい生活については、生徒・保護者ともに回答が増加している。特に保護者の健康に関する意識が増加しているのは、生徒にとっても良い傾向のため、家庭と連携しながら指導を行っていききたい。
- ・自らの健康増進については、保護者の回答は増加しているものの、生徒の回答が低下している。生徒自身が自らの健康状態に興味を持ち、よりよい生活を送っていけるよう、ほけんだより等も活用しながら指導を行っていききたい。
- ・教職員の健康増進に向けた指導については、昨年度と比較し増加している。教職員の日々の指導のおかげで、生徒や保護者の回答が増加傾向になっていると感じる。健康増進に向けた指導がよりよいものになるよう、今後も資料や情報の提供を行っていききたい。

分析を踏まえた取組の改善

- ・例年取り組んでいる安全や防煙、薬物乱用防止等に関する学習の時間に加えて、保健室来室時の保健指導やほけんだより等の機会も活用しながら、より学びを定着させていく。
- ・望ましい生活習慣や健康増進に関する啓発及び指導を学校生活の様々な場面で適宜行っていく。生活習慣が乱れがちな生徒や、来室頻度が気になる生徒に関しては個別指導を継続して行っていく。全体指導としては環境委員会を活用し、望ましい生活習慣や健康増進に関する発信を行い、生徒主体で取り組んでいきたい。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・生徒アンケート
- ①防災や喫煙・薬物の危険性など十分にわかりましたか。

	<p>②規則正しい生活ができていますか。</p> <p>③自らの健康増進ができていますか。</p> <p>・教職員アンケート</p> <p>①健康増進に向けた指導をできていますか。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>・京セラの稲盛和夫さんの言葉にもありますが、人生や仕事の結果は、考え方と熱意と能力の3つの要素の掛け算で大きく変わります。ですが、この考え方を支える為に体力が必要であると思います。</p>

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p>	
	<p>・生徒・保護者アンケート</p> <p>生 ①防災や喫煙・薬物の危険性など十分にわかりましたか。</p> <p>保 ②規則正しい生活ができていますか。</p> <p>生 ③自らの健康増進ができていますか。</p> <p>保</p> <p>・教職員アンケート</p> <p>健康増進に向けた指導をできていますか。</p>	<p>前期結果</p> <p>97.8% → 98.2%</p> <p>94.9% → 94.5%</p> <p>85.3% → 85.6%</p> <p>78.3% → 73.7%</p> <p>85.8% → 85.8%</p> <p>69.4% → 71.0%</p> <p>88.9% → 88.0%</p>
自己評価	<p>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>・防災や防煙・薬物乱用防止に関する学びは例年通り高率で定着しているが、生活習慣については前期と比較すると、保護者の項目が低下している。</p> <p>・保健室の来室の多くが睡眠不足や疲労が原因である。また、長期休暇明けということもあり、生活習慣の乱れによる不調も増加している。日々の生活習慣と心身の健康が密接にかかわっていることに生徒自身が気づき、考え、行動できるようにしていきたい。望ましい生活習慣に向けた指導を引き続き取り組んでいく必要がある。</p> <p>・教職員の健康増進に向けた指導についての項目が低下しているため、学校教育全体で健康について指導ができるよう取り組んでいきたい。</p>	
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>・健康観察や保健室来室状況等による生活習慣(睡眠時間、食事、直近の生活など)の様子の確認を引き続き行う。また、自身の生活を振り返り、生活習慣の乱れが不調の原因となっていないかどうか考えさせる。個別の保健指導だけでなく、ほけんだよりや掲示物を通じて全体指導を行い、定期的に生活を振り返る機会を設ける。</p> <p>・保健室で気になる生徒に関しては、適宜対応を考え、内容を継続して学年と連携し続けることが必要である。</p> <p>・教職員に向けて、健康に関する情報の発信や、指導ポイント等をまとめたほけんだよりを発行するなど、学校全体で健康の保持増進に向けて取り組んでいきたい。</p>	

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツをしている生徒以外、運動機会が減少しています。さらに運動機会を与える工夫をお願いします。 ・喫煙、薬物犯罪が低年齢化し簡単に手に入る時代、危険性の教育は大変でしょうが、しっかり入口で食い止めたいものです。 ・健康は家庭での指導、気配りが重要だと思います。 ・防災や薬物の危険性は身近にせまっている事を大人も生徒もしっかりと自覚する事が大切だと思います。その上で自身が巻き込まれない様に、日頃の生活に気を配ってほしいです。 ・健康で強い心身を作ることは、学校生活・家庭生活においても、自分自身の常日頃からの心掛けが必要です。その為には食生活・運動・休養・睡眠とどれをとっても大切な事柄です。 ・自分の身の回りに付きまとう事柄に対する、マナーやルール、自分自身に課せている最低限のマナーやルールもしっかりとコントロールすることを、自分自身に言い聞かせ強い心身を作りましょう。 ・よく食べてよく眠る、成長に不可欠なことは特別ではない日々の中にある。健やかな心と健やかな体はつながっていると思います。
---------	--

(4) 学校独自の取組

重点目標	
「地域を愛し、主体的に学び、自らの未来を創造する児童・生徒を育てる」	
具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・小中校長会、小中主任会のさらなる推進 ・<u>小中連携主任会の開催</u>（1か月に1度程度） ・<u>小中合同研究授業、小中合同研修会の充実</u> ・<u>小学校への授業参観および、中学校への授業参観に取り組む。</u> ・小学生と中学生がともに学び、ともに活動する場の創造 （相互の行事等への参加、生徒会と児童会のさらなる連携、小学生の授業体験と部活見学への参加） ・小学校で行われている、行事や研究のアナウンスをする。 ・小中 PTA の合同行事を通じた連携 	
(取組結果を検証する) 各種指標	
<ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケート結果 小中一貫教育が進むように意識し、行動できていますか。 	

中間評価

各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケート 	令和7年度 令和6年度
小中一貫教育が進むように意識し、行動できていますか。	59.2%←62.5%
自己評価	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育目標があまり意識されておらず、その目標に照らし合わせて生徒の姿を観察したり、教育活動を見直したりする機会も今までなかった。 ・小中連携主任どうしでは、かなり意見交流がなされている。小中連携主任を始め、各主任が中心となって少しずつ小中連携に取り組み始めた。

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中の小中合同研修会で、部会を立ち上げた。研究部・生徒指導部・総合育成支援教育部・総合的な学習の時間部・人権教育部・児童会生徒会部・養護栄養部の各部に小中の教員を割り振って、小中一貫教育目標達成に向けて、その部においてできることなどを交流しまとめた。 ・10月のまるごと太秦ウィークで、小学校の先生方に参観いただき、小中一貫教育で目指す姿と今の中学生の姿を観察してもらおう。同様に定期テストの午後を活用して、中学校の教員が小学校の授業を参観する。 ・2月には各部の主任会を持ち、来年度に向けて成果や課題を明確化する。 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケート 小中一貫教育が進むように意識し、行動できていますか。
<p>学校関係者評価</p>	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の成長や学力の向上には、能力や知識、心構えが大切ですが、これに情熱や熱意、努力が掛け合わさればさらに加速すると思います。子どもたちに情熱や熱意、努力（続け方、取り組み方）の大切さを教えていただければ。 ・情熱や熱意はみんなが持っているもので、人に見えるもの、人には見えないものがある。個々によって違うものなので、潰されないようにして欲しい。じっくり考える時間も必要ではないでしょうか。 ・努力せず成長できたという人がいるが、正確には努力の考え方の違いがあるのだと思います。自分では楽しいことなので、一生懸命やっていることを努力とっていない人を、周りの人はとても努力する人だと評価することがある。努力に対する意識の違いがあるので、言葉かけにも気をつけないと子どもの成長にはつながらないと実感しました。 ・進路、特に高校進学については、毎年制度の変更もあり受験まで不安も多いと思います。生徒と保護者に分かりやすい説明、面談等、寄り添った取り組みをお願いしたい。 ・習慣を身に着けている子どもは高校生になっても伸びていくと実感しています。小学校で身に着けたことは中学校でも高校でも当たり前のようにできます。高校生から身に着けさせることはとても困難だと感じています。習慣が身につけばもっと伸びるのにと思うこともあります。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <table border="0"> <tr> <td>・教職員アンケート</td> <td>前期結果</td> <td>後期結果</td> </tr> <tr> <td>小中一貫教育が進むように意識し、行動できていますか。</td> <td>59.2%</td> <td>→ 52.0%</td> </tr> </table>	・教職員アンケート	前期結果	後期結果	小中一貫教育が進むように意識し、行動できていますか。	59.2%	→ 52.0%
・教職員アンケート	前期結果	後期結果					
小中一貫教育が進むように意識し、行動できていますか。	59.2%	→ 52.0%					
<p>自己評価</p>	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育目標があまり意識されておらず、その目標に照らし合わせて生徒の姿を観察したり、教育活動を見直したりする機会も今までなかったころから比べると、小中で何かをするときには常に教育目標を見失わないよう、提示し続けた。なくなった取組、削減した取組もなく、前年度よりも意識する機会が増えたにも関わらず、アンケート結果が低下したのはなぜか。それは意識されてきたからこそ、その目標に照らし合わせた取組はなされていないことに気づいたからなのではないか。意識が向上すると、評価基準は上がる。しかしこれはいい傾向であると分析する。今年度末には再び小中合同主任会を開き、今年度の反省と来年 						

	<p>度への展望を持っていただく。来年度からは少しずつ行動や取組に現れてくることを期待する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中連携主任どうしでは、引き続きかなり意見交流がなされている。その意見交流がまだまだ連携主任で留まっていることが課題と感じる。他主任についても少しずつ巻き込み、意識の持ち方を伝え、一貫した意識や取組が進んでいくことを期待する。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の形を続けることが大切である。 <p>4月小中合同主任会で、今年度の総括を受けて新しい年間方針を立てる</p> <p>→夏までに取り組めることがあれば実践し、検討事項があれば練り上げる</p> <p>→夏の小中合同研修会で、主任を中心として部会を開く</p> <p>→年度末までに取り組めることがあれば実践し、検討事項があれば練り上げる</p> <p>→2月小中合同主任会で、次年度につながる年間総括を行う</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大変でしょうが、ぜひ継続してください。 ・小中一貫教育は、従来の小学校・中学校に当たる9年間の義務教育を一貫して行う事で、9年間の学びと育ちの連続性による、児童・生徒の学習意欲の向上と中一ギャップが解消されるメリットがありますが、一方小中の節目の切り替えや進学する充実感が無くなる可能性があるのではないのでしょうか。 ・小中の連携だけでなく、高校についても昨今の教育事情を反映した進路指導を生徒や保護者に向けてお願いしたい。 ・なお一層、進めてください。

(5) 教職員の働き方改革について

<p>重点目標</p> <p>教職員のライクワークバランスや勤務状況をより詳細に把握し、今後の職場環境の改善につなげる</p>
<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事と生活の単なる「時間のバランス」ではなく、『仕事』と育児や介護、趣味や学習、休養、地域活動といった『仕事以外の生活』との調和をとり、その両方を充実させることを推進する ・時間外勤務が過労死ラインである「月80時間」を超えないように徹底、「月45時間以内」を目指し、計画的な業務遂行を推進する ・年間16日以上の子育休取得や子育て応援ハンドブックを活用し、育児や子の看護のための休業等を取得しやすい雰囲気や環境づくりを推進する ・ブラッシュアップ月間における管理職面談など、あらゆる機会を通して、勤務状況・健康状況等の把握を行い、健康の保持・増進を推進する ・中学校ブロックで統一した電話対応時間を変更するなど、保護者・地域に分かりやすい働き方改革を推進する
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケート結果 <p>① 時間外勤務が過労死ラインである「月80時間」を超えないように徹底、「月45時間以内」を目指し、計画的な業務遂行に努めていますか。</p> <p>② 気持ちよく働いていますか</p>

- ・出退勤システムによる超過勤務時間の分析
- ・ストレスチェックの活用

中間評価

各種指標結果

- ・教職員アンケート 令和7年度 令和6年度
- ① 時間外勤務が過労死ラインである「月80時間」を超えないように徹底、「月45時間以内」を目指し、計画的な業務遂行に努めていますか。 85.2%
- ② 気持ちよく働けていますか。 81.4%←87.6%

自己評価

分析（成果と課題）

- ・太秦中学校の教職員の時間外在校等時間は、令和元年度（57時間9分）だったが、令和6年度（39時間31分）と縮減している。数値目標である「全ての教職員が月平均45時間以内」を達成できているわけではないが、働き方改革を意識しながら勤務していることは浸透してきたといえる。
- ・数値目標である「月80時間超えの教職員ゼロ」については、令和6年度（6人のべ13月（3%））だったが、令和7年度（12人のべ18月（6.7%））と半年にもかかわらず増えている。仕事量の偏りに目を向け、担任業務や部活動指導、分掌での役割分担等協力できる体制づくりを強化する必要がある。
- ・数値目標である「年間16日以上の子次休暇取得」については、令和6年度（24人/35人）平均19.3日3.7時間取得できた。学校閉鎖日や年休取得推進日を設定することで、取得しやすい環境づくりができています。
- ・「気持ちよく働けている」と回答した教職員が昨年度より6.2%減ったが、80%以上と高い数値を維持している。一方、そう回答していない20%弱の教職員の原因に目を向け、コミュニケーションをとりながら、改善していく必要がある。
- ・「時間外勤務が過労死ラインである「月80時間」を超えないように徹底、「月45時間以内」を目指し、計画的な業務遂行に努めている」と回答した教職員が、85%と高い結果で、継続して時間を意識して仕事をしている。

分析を踏まえた取組の改善

- ・引き続き「時間外在校等時間の縮減」を目指すとともに、ウェルビーイング向上の観点も大切に「やりがい、働きがい」が高まるとともに「働きやすさ」を感じながら勤務できる学校づくりを推進する。
- ・校内体制の点検・見直し、校務効率化を進め「月80時間超えゼロ」「月45時間以内」の目標達成に向け、時間外在校等時間の縮減に努める。
- ・学校閉鎖日や年次休暇取得推進日等を活用し、長期休業中に積極的な年次休暇取得を促し「年間16日以上」の取得を促す。
- ・採点補助ソフト「百問繚乱」の活用、校務支援システムの活用、保護者連絡ツール「すぐーる」の活用、生成AI（Copilot）の活用、統合端末のリモートアクセスやiPadの活用、SMART PORTALの活用など、ICTを活用した更なる校務効率化を図る。
- ・相互に支え合い、魅力や満足感、達成感、充実感を持ちながら、教育活動に取り組む。向上心や意欲を持ち、働きがいや働きやすさを感じながら、働くことができる環境づくりを推進する。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

	<p>・教職員アンケート結果</p> <p>① 時間外勤務が過労死ラインである「月80時間」を超えないように徹底、「月45時間以内」を目指し、計画的な業務遂行に努めていますか。</p> <p>② 気持ちよく働いていますか</p> <p>・出退勤システムによる超過勤務時間の分析</p> <p>・ストレスチェックの活用</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>・昔は事務職員さんや管理用務員さんが当直していて、先生達は夕方5時頃に帰られていた。但しクラブ活動担当者は6～6時半頃だったかな。</p>

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>・教職員アンケート</th> <th>前期結果</th> <th>後期結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 時間外勤務が過労死ラインである「月80時間」を超えないように徹底、「月45時間以内」を目指し、計画的な業務遂行に努めていますか。</td> <td>85.2%</td> <td>72.0%</td> </tr> <tr> <td>② 気持ちよく働いていますか。</td> <td>81.4%</td> <td>80.0%</td> </tr> </tbody> </table>	・教職員アンケート	前期結果	後期結果	① 時間外勤務が過労死ラインである「月80時間」を超えないように徹底、「月45時間以内」を目指し、計画的な業務遂行に努めていますか。	85.2%	72.0%	② 気持ちよく働いていますか。	81.4%	80.0%
・教職員アンケート	前期結果	後期結果								
① 時間外勤務が過労死ラインである「月80時間」を超えないように徹底、「月45時間以内」を目指し、計画的な業務遂行に努めていますか。	85.2%	72.0%								
② 気持ちよく働いていますか。	81.4%	80.0%								
自己評価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>・数値目標である「全ての教職員が月平均45時間以内」を達成できている割合は54%だが、働き方改革を意識しながら勤務していることは浸透してきた。</p> <p>・数値目標である「月80時間超えの教職員ゼロ」については、中間分析以降0人で徹底できている。</p> <p>・数値目標である「年間16日以上年次休暇取得」を達成できている割合は20%である。</p> <p>・「気持ちよく働いている」と回答した教職員が中間分析より1.4%減ったが、80%と高い数値を維持している。</p> <p>・「時間外勤務が過労死ラインである「月80時間」を超えないように徹底、「月45時間以内」を目指し、計画的な業務遂行に努めている」と回答した教職員が72%と中間分析より13.2%減った。</p>									
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>・4月、5月、6月、9月、10月は70時間を超えている教職員がいるので、学校行事や担任業務、部活動指導、分掌での役割分担など仕事量の偏りを見直す必要がある。</p> <p>・12月までに平均12日3.4時間、年休を取得できている。春休みについても年休を取得しやすい環境づくりを推進し、全員が16日以上取得できるように努める。</p> <p>・教職員全員が気持ちよく働けるように、日々のコミュニケーションを大切にしながら改善し、「気持ちよく働いていますか」アンケート結果100%を目指す。</p> <p>・時間を意識して仕事をしていることは浸透してきたが、実際は月45時間以上となっているので手ごたえを感じられず数値が減少したと思われる。数値目標達成も目指しながら、達成感や満足感を得られる良好な職場環境をこれからも整えられるように努める。</p> <p>・時間外勤務を分析すると、休日部活動が占める割合が減らなければ「全ての教職員が月平均45時間以内」を達成することは難しいと思われる。大会や記録会、コンクールなどを計画する諸</p>									

	団体と連携し取り組む必要があると考える。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間16日以上の子次休暇取得は、やはり少ないですね。人員的にはいかがなんでしょうかね。 ・教職員の働き方改革は、中々理想通りに行っていない様に感じます。 ・仕事量と時間の調整ご苦労様です。 ・先生方のリフレッシュも大事であり、それが生徒に良い形で還元出来たらいいと思います。 ・先生方はめちゃくちゃ忙しい。令和10年部活動地域展開などが推進され、先生方に余裕ができると回りまわって子どもたちに帰ってくると思います。 ・部活動の地域展開について、クラブチームなどで活動している親子はやりたい気持ちで積極的に参加し、経済的にも余裕のある家庭が多いように思う。経済的に余裕がない家庭の子どもも参加できる、スポーツに興味を持って活動できるようにしてほしいものです。

(6) いじめの防止等についての取組に向けて

重点目標	自ら考え行動し、協働できる生徒の育成
具体的な取組	「学校いじめの防止等基本方針」に同じ
(取組結果を検証する) 各種指標	<ol style="list-style-type: none"> ①全教職員が学校いじめの防止基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている ②学校のいじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介している ③生徒、保護者アンケート結果を活用する <ul style="list-style-type: none"> ・1人1人が大切にされている学級ですか ・他人を大切にしていますか ④生徒、保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容を共有している ⑤保護者や学校運営協議会等に、学校いじめ防止等基本方針や学校の取組を説明、周知している

中間評価

各種指標結果	
① 全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている。	令和7年度 令和6年度 92.6%←87.5%
② 学校のいじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介している。 ⇒ 学校だより（6月号）に掲載し、「すぐる」配信で周知した。「すぐる」未登録の家庭には紙面配布で周知した。	
③ 生徒・保護者アンケート結果	令和7年度 令和6年度
生「一人一人が大切にされている学級ですか。」	87.8%←90.8%
保	93.7%←87.7%
生「他人を大切にしていますか。」	98.3%←98.5%
保	97.9%←97.8%
④ 生徒・保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容を共有している。	令和7年度 令和6年度 100%←90.7%

	<p>⑤ 保護者や学校運営協議会等に、学校いじめ防止等基本方針や学校の取組を説明、周知する。 ⇒ 学校だよりやホームページを通して、保護者へ学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知した。</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ①の項目で数値が上昇している。今年度は、全教職員が意識的に組織的対応に努めていこうとしている結果だと考えられる。しかし、まだまだ課題の多い教職員間での情報共有や報・連・相の徹底を中心に、今後も努力していきたい。 ③の「他人を大切にしていますか」の項目では、保護者の数値が微増し、生徒の数値も高い数値を保っている。他人に対して、優しさを持って接していることが分かる数値となっており、今後も地域活動を中心に、地域にとっても優しく接していくことのできる集団形成を心がけていきたい。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の小さな変化を見逃さず、教職員間で情報を共有して、組織としていじめ未然防止に努める。また、学校の取組を知らせていくことを大切にする。 中学校入学前や学校外の人間関係も中学校での人間関係に起因することがよくあるため、小中連携による情報共有、保護者や地域からの情報収集、日常の生徒の言動に常にアンテナを張ることが必要である。 他人と関われる、他人のことを考えることができる活動の量を増やし、一層工夫する。 学年会、補導部会、生徒指導委員会を中心に情報を共有し組織的な対応を行う。突発的な事象が起きた際にも、報・連・相をより一層徹底していく必要がある。また、全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解するように発信していく必要がある。
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者アンケート ①「一人一人が大切にされている学級ですか。」 ②「他人を大切にしていますか。」 教職員アンケート ①「学校いじめの防止等基本方針」の内容を理解し、組織的対応に努められましたか。 ② 生徒・保護者の訴えや相談内容を学年・学校で共有できていますか。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめについては無関心が何より問題。親も子も、先生も生徒もお互いに関心を持つ事で、日々の変化も感じる事が出来ると思います。 昔もいじめは有りましたが、必ず間に入って止める人が居ました。 揶揄たりしている本人が気づいていなくて、受け手や周りが感じていることもあるかもしれない。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果			
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者アンケート ① 生「一人一人が大切にされている学級ですか。」 保 ② 生「他人を大切にしていますか。」 	前期結果	後期結果
		87.8%	→ 91.7%
		93.7%	→ 91.3%
		98.3%	→ 97.5%

保

97.9% → 98.8%

・教職員アンケート

①「学校いじめの防止等基本方針」の内容を理解し、組織的対応に努められましたか。

92.6% → 92.0%

②生徒・保護者の訴えや相談内容を学年・学校で共有できていますか。 100% → 100%

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

・他人を大切にしようとする気持ちは育っており、前期から比較しても後期には数値として上昇している。ただ、「一人ひとりが大切にされている」との欄にはいと答えれていない人が10%近くいることは見逃してはいけない。依然として、学級内での雰囲気作りとしても、人をいじったり、馬鹿にしたり、といった行為を見逃すことなく、温かい雰囲気作りを目指していく必要がある。また、クラスメイトや教員とのつながりが弱い生徒たちがいることも考えられるので、生徒をしっかりと観察し声掛けや取組をしていく必要がある。

・教職員は日常の観察や各種のアンケートの中で、いじめの早期発見やいじめに発展することのないよう未然防止に努めている。その背景には、生徒指導委員会や学年体制等の組織でいじめ防止に当たっている。しかし、小さなトラブルの内容までは学年間で共有されていない可能性もある。再度、報連相の徹底をしていく必要がある。

分析を踏まえた取組の改善

・昨年度と同じような値の変化を示しているため、この結果を真摯に受け止め改善することが求められる。学級経営や生徒の指導の仕方などについて、教員のスキルアップは不可欠なので、次年度には研修なども計画し、教員の意識を高めていきたい。

・人を大切にしようとする心は育ってきており、それを行動で示すことができるように指導していきたい。また、人とのつながりを創り出していく取組を大切に、一つ一つの取組によって人と人がどうつながっていくのかを理解した上で実践していきたい。

・いじめ防止の対応には、生徒指導部と学年の縦横双方の組織で取り組む体制を今後も大切にす。また、見逃しのない観察と早期発見、指導を心がけていく。

・自尊感情が高まる取組や生徒同士がつながる取組を一層推進し、それを学級通信や学年だより、学校だより、またホームページ等で積極的に保護者に発信するように努めたい。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

・最近毎日のように、いじめ自殺のニュースが流れ、心が痛みます。

・学校にいじめ対策委員会のメンバーがいらっしやるとの事、保護者の方々も安心されていると思います。

・いじめ問題については、校内においていち早く「対策委員会」を設置され様々な問題に向き合っておられると思います。いじめ問題は学校だけの問題でなく、基本は矢張り、家庭教育・親子のコミュニケーションの大切さ、重要性を家庭内で共有し、それこそ道徳が身につくれば、心配に及ばないと思う。

・いじめの当事者には誰もがなり得ます。当事者とは、いじめ現場で直接関わらなくても傍観して無関心・無関係を装う者も含まれるのです。いじめは他人事ではなく自分たち一人ひとりの問題である事を改めて考えてほしいです。

・いじめ撲滅に頑張ってください。生徒の中に感度の良いアンテナを。